

第13回全国大会の開催にあたり 新型コロナウイルス禍でのオンライン教育の経験知の共有と教科情報の今後

皆さまもご承知の通り、2020年は、新型コロナウイルス(COVID-19、以下コロナと略す)感染症拡大の危惧から、教育や産業界など各方面において、オンラインへの対応が急遽求められた大変な年となりました。研究活動においても例外ではなく、各学会が主催する研究会の多くは、オンラインで開催しています。この度の日本情報科教育学会(JAEIS)第13回全国大会も、その影響を受けまして、オンラインで開催する運びとなりました。大会の運営に携わっている学会関係者の皆さまには、初めての全国大会オンライン開催で勝手が分からないにも関わらず、色々と柔軟に準備を進めていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、上述したように、コロナの影響を受けて、各教育機関ではオンライン教育も含めたICT活用教育推進の機運が急速に高まっています。さらに広くいえば、オンラインを活用した様々な社会活動全体がポストコロナ時代の要請となっています。皮肉なことですが、コロナの蔓延がICT活用の背中を強く押しているという結果になりました。

オンライン教育に対する急な対応が求められた中でも、本学会に所属する多くの研究者・教育実践者の皆さまは、オンライン教育や教科情報に関わる様々な知見を蓄積してきたことと思います。そこで、こうしたコロナの経験を踏まえた各会員の教育実践を共有する場を提供し、今後の情報科教育に関わる様々な知見を相互に意見交換することを目的として、第13回全国大会を開催します。

基調講演では、西野和典会長(太成学院大学 教授)からご講演をいただきます。また、2日間にかけて、37件の研究発表を予定しています。その中には、遠隔授業やオンライン授業といった、今大会のテーマに合致したキーワードを含む研究発表も見られます。残念ながら、今大会ではワークショップやパネルディスカッションを設定することができなかったのですが、限られた中でもオンラインを通じた密な情報交流をしていただけると嬉しく思います。

なお、本大会は、例年、日本大学文理学部で行われているフォーラムとの合同開催とし、あわせてオンラインでの開催とします。フォーラムのテーマは「大学入学共通テスト『情報』新設」であり、本大会とはまた違った観点から議論ができると思います。講演では、鹿野利春氏(国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室教科調査官、文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校教育)付産業教育振興室教科調査官)をお招きし、「新しい情報科を教える準備」についてお話をいただく予定です。その後のパネルディスカッションでは、パネリストに水野修治氏(独立行政法人 大学入試センター 試験問題調査官(情報担当))、中山泰一氏(電気通信大学 教授)、萩谷昌己氏(東京大学 教授)、青山貴史氏(福岡県立新宮高等学校 教諭)、山下裕司氏(山口県立岩国高等学校 教諭)、北野堅司氏(大阪府立東百舌鳥高等学校 教諭)の6名をお招きし、「2025年度大学入学共通テストに「情報科」が新設、私たちがそれまでにやらなければならないこと」をテーマとして議論を行う予定です。

例年とは異なるオンライン開催となりますが、2020年12月26日(土)と27日(日)が皆さまにとって充実した2日間となることを祈念しています。

日本情報科教育学会全国大会企画委員長
浅羽修丈(北九州市立大学)

2020年12月吉日